

## 伊勢湾貧酸素情報（第4報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

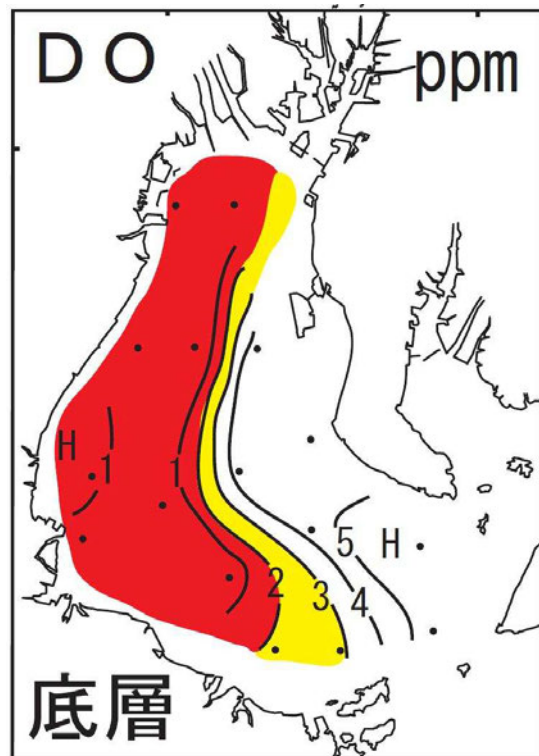
伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾口部を除く三重県沿岸から湾中央の広い範囲で2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

### 10月21日の調査結果

10月21日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で21.0～22.0℃、10mで22.0～22.8℃、底層で21.6～22.8℃の範囲にあり、表層では平年並みからやや低め、10mでは平年並みからやや高め、底層では平年並みからやや高めとなっていた。塩分は表層で25.71～31.03、10mで31.19～33.07、底層で32.36～33.94の範囲にあり、表層では平年並みから高め、10mではやや高めから高め、底層では平年並みからやや高めとなっていた。

DO（溶存酸素量）は表層で5.7～7.5ppm、10mで1.0～6.6ppm、底層で0.1～5.9ppmの範囲にあり、表層では平年並みからやや低め、10mでは平年並みからかなり低め、底層では湾口部を除く三重県沿岸から湾中央にかけて2ppm以下の貧酸素水塊が形成されていた。

水温は表層から底層までの差が小さくなってきているが、塩分は表層で低塩分、底層で高塩分傾向にある。このため底層の貧酸素が近日中に解消するとは考えにくく、今後も貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布